

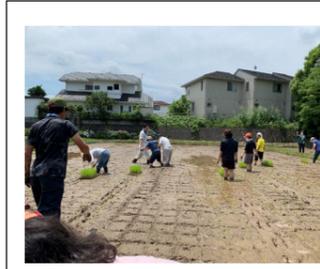
寺家の日記
米作りの田んぼ



5月1日 開所
でんぱたの名の由来でもある大事な米作りの豊作を祈りながらみんなでテーマポールを壁に打ち込みました。



6月14日 筋引き
でんぱたの田植えは1本1本手植えをします。メンバーさんが作った田植え定規で手植えの目印の筋を引きました。



6月15日 田植え
地域の皆さんとメンバーさんがペアになり手植えをしました。この数日後に除草のための米ぬかを少し多く撒きすぎたので、近所の方に迷惑をおかけしました。ごめんなさい!!



7月5日 / 回目7月18日 2回目
田の草取り。へっぴり腰だけど田車押して、農業を使わない、身体を使う。健康的。最高です!



8月15日出穂を確認! 小さな小さな稲の花。ただの草の葉のようだった稲が、お米としての姿を見せた。



未来日記
10月になったら稲刈り。とれたお米でこめ祭り!!

ミライを見つめて今日を過ごそう

私達も生まれたときは小さな種のような存在。これから芽を出し葉を伸ばし、太陽をいっぱい吸いながら、笑顔でまわりを照らし、秋になって葉を落として身を軽くして、寒さに固くなって、春の訪れを待つ。

でんぱたの畑で初めてできたトマトはとても皮がしっかりと固く、思い切って噛むと甘酸っぱい味が口にひろがった。私達もしっかりと皮を作りながら中身が美味しくみんなで楽しめるような存在でありたいと思う。でんぱたでみんなとともに働くようになって感じることは、ひとつひとつの手の動きの大切さ。家に帰って写真や動画を見返し、メンバーさんの仕事ぶりを見ていてしみじみ感じる。小さなボトルで優しく水やり、ちらばった剪定枝を無心に集める。芽かきのためにハサミを入れる。みんなの手の動きを追って見るだけでその日の仕事ぶりが見えてくる。5月、荒削りだったみんなの手はこの短い期間で働く手が変わろうとしている。畑作業は季節とともに繰り返す。その繰り返しの先に未来が見える。 そんな、気がする。



農と遊び
人と集ろう

君は言葉をしやべらないだから何を考えているのかよくわからない。よくわからないから、君は何もかんがえていないんだらうと僕は勝手に思ってしまうところが、一緒に陶芸をやったあとも、でんぱたのメシを作ったあとも、別れ際、にやつと笑って握手を求めてくる。何をやったのかちやんとわかっていて、別れ際、その楽しかった気持ちをちゃんと伝えてくれるのだ。握手を求めるとき、きみのまぶしいくらいに笑顔が素敵だ。そんな出会いが嬉しい。

高崎 明

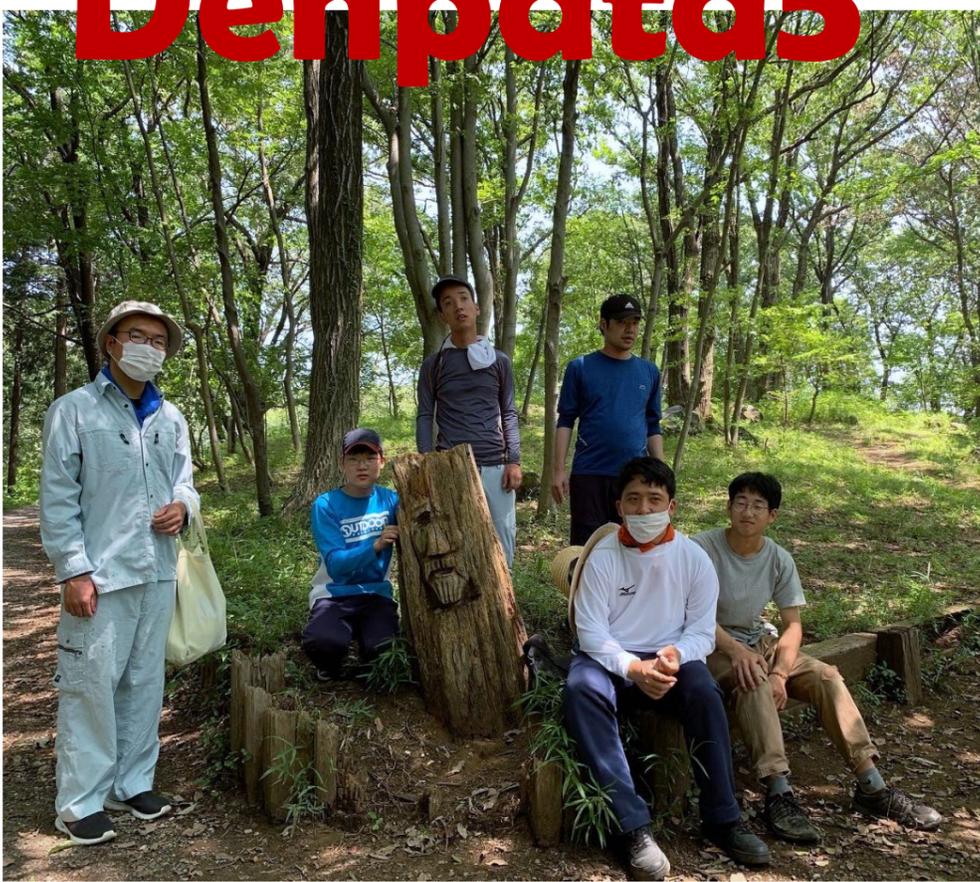


野菜を見てニコッ。ハサミを持ってニコッ。収穫してニコッのooshimaさんです。



Takadaさんとケンカ中か仲良し中か。それはhorinoさんの笑顔が教えてくれている。

Denpata5



緑区にある『新治の森』はひとときのタイムトリップの場所。この夏、この森でブルーベリーの収穫に励んだ。

写し絵が大好きな OOTOMI さん。蜂の絵を見て写し絵したくて大盛り上がり。だけれど普段の農作業で抜群の器用さを披露してくれる彼なので、そのまま見て描いても上手いはず! とお願いしまくって描いてもらうこの通り。さすが。関連付けがとても得意もあるので、このあと続けて注射器も描く。針つながり、ナイス! これからも楽しみ。



誰もが気持ち重く沈んだ新型コロナウイルスによる社会変化。でんぱたメンバー中さんの生活も大きく影響を受け、気持ちも落ち込んだ。そんな様子を朝日新聞が取り上げた。現在はデジタル版で読む事ができる。右のQRコードからどうぞ。



でんぱたの好きな場所

NO.1
横浜市青葉区鴨志田にある福祉事業所。広い畑ではたくさんの仲間たちが右へ左へと歩いています。その仕事こそがグリーンさんの野菜たちが美味しい由縁。端から端へと暑い日も寒い日も堆肥を運び続け、最高の土壌作りに取り組んでいます。ぷかぷかでも毎週グリーンさんの野菜さんを購入させていただいて、その野菜は『おひさまの台所』のお弁当のおかずになったり、『ぷかぷかさんのおひるごはん』のお昼ごはんになったりしています。あるスタッフのお気に入り甘みたっぷりグリンがおすすめ。の長ネギ、もう1人のスタッフのおすすめはさつまいも。時期になると色々なところのお芋を食べるけれどグリーンさんが1番と太鼓判! グリーンさんのアンテナショップ『とうり』では様々な商品が購入でき、大人気の自家製ドライ野菜の商品もたくさん販売されて

<https://www.green1993.or.jp/index.html>
■社会福祉法人グリーン [045-961-0305]
横浜市青葉区鴨志田町335-1
■SHOP とうり [045-482-7277]
横浜市青葉区鴨志田町561-6

